

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2023年第30週
(7月24日～7月30日)

- * 2023年8月2日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<https://survey.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「再びサル痘(エムポックス)、そしてワクチン」も掲載しています。

令和5年(2023年)8月3日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：tmiph@section.metro.tokyo.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2023年30週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		27週	28週	29週	30週	年累計	30週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	36	45	35	42	1,106	244	7,821
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
	鳥インフルエンザ(H7N9)							
三類	コレラ					1		1
	細菌性赤痢	1				5		23
	腸管出血性大腸菌感染症	10	16	8	15	184	131	1,615
	腸チフス					4	1	24
	パラチフス					1		6
四類	E型肝炎	2	5	2		116	9	353
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎		1			6		32
	エキノкокクス症							9
	エムポックス	1	1			140		185
	黄熱							
	オウム病							7
	オムスク出血熱							
	回帰熱							10
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							1
	ジカウイルス感染症							
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*3}						3	97
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱							2
つつが虫病				1	5	1	108	
デング熱	2	1	1		16	3	51	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。

*3 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		27週	28週	29週	30週	年累計	30週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱					1	8	189
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア					4		8
	野兔病							
	ライム病					1	4	15
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
	レジオネラ症	4	4	3	4	85	47	1,220
レプトスピラ症		1			1		8	
ロッキー山紅斑熱								
							2023/8/2集計	

(全数把握対象疾患のコメント:一類～五類)

〈二類感染症〉

結核 42件 患者 29件(肺結核 21件、その他の結核 6件、肺結核及びその他の結核 2件)、無症状病原体保有者 13件、年齢は5歳未満 1件、5～9歳 1件、20代 6件、40代 7件、50代 5件、60代 5件、70代 5件、80代 6件、90歳以上 6件、推定感染地は国内 22件、ネパール 2件、ミャンマー 1件、不明 17件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 15件 患者 10件、無症状病原体保有者 5件、血清型・毒素型はO26 VT1 1件、O111 VT1 1件、O157 VT1・VT2 9件、O157 VT2 2件、O157 VT(型不明) 1件、血清型不明VT1 1件、年齢は5歳未満 1件、10代 4件、20代 3件、30代 3件、40代 1件、50代 2件、60代 1件、推定感染地は国内 11件、不明 4件、推定感染経路は経口感染 8件、接触感染 1件、不明 6件であった。

〈四類感染症〉

つつが虫病 1件 患者、年齢は5～9歳、推定感染地は国内であった。

レジオネラ症 4件 病型は肺炎型 4件、年齢は30代 1件、40代 1件、80代 2件、推定感染地は国内 1件、タイ 2件、韓国 1件、推定感染経路は水系感染 3件、不明 1件であった。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 5件 病型は腸管 4件、腸管外 1件、年齢は40代 1件、50代 1件、60代 2件、80代 1件、推定感染地は国内 2件、米国 1件、不明 2件、推定感染経路は同性間性的接触 1件、経口感染 2件、不明 2件であった。

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 4件 病原菌はEnterobacter cloacae complex 3件、Klebsiella pneumoniae 1件、年齢は50代 1件、70代 1件、90歳以上 2件、推定感染地は国内 2件、不明 2件、推定感染経路は以前からの保菌 2件、医療器具関連感染 2件(尿路カテーテル 1件、中心静脈カテーテル 1件)、90日以内の海外渡航歴は渡航なし 4件であった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2023年30週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		27週	28週	29週	30週	年累計	30週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	3	1	1	5	56	7	281
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	1	3	1		34	1	149
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	8	3	4	4	116	28	1,027
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く) *1					5	1	35
	急性脳炎 *2			2		18	14	305
	クリプトスポリジウム症			1		1		5
	クロイツフェルト・ヤコブ病					9	1	83
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4	3	4	1	70	8	482
	後天性免疫不全症候群	5	9	7	10	184	11	555
	ジアルジア症		1			7		27
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3	2	4		26	10	314
	侵襲性髄膜炎菌感染症					1		10
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	6	2	1	104	20	1,044
	水痘(入院例に限る)		1			39	7	224
	先天性風しん症候群							
	梅毒	61	72	58	67	2,156	194	8,653
	播種性クリプトコックス症			1		12	1	102
	破傷風					2	4	58
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症				1	6	2	77
百日咳		4	7	5	78	24	534	
風しん					4		9	
麻しん					6*3		22	
薬剤耐性アシネトバクター感染症					1	1	11	

2023/8/2集計

*1 2018年5月1日より追加指定された。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

*3 遺伝子検査陰性1例を含む。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 血清群はA群、年齢は70代、推定感染地は南アフリカ、推定感染経路は不明であった。

後天性免疫不全症候群 10件 無症候キャリア 10件、性別は男性 10件、年齢は20代 2件、30代 4件、40代 3件、60代 1件、推定感染地は国内 9件、中国 1件、推定感染経路は性的接触 9件(同性間 8件、性別不明 1件)、静注薬物使用 1件であった。

侵襲性肺炎球菌感染症 1件 血清型は未実施、年齢は60代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、肺炎球菌ワクチン接種歴は不明であった。

梅毒 67件 患者 56件(早期顕症梅毒 I 期 31件、早期顕症梅毒 II 期 24件、晩期顕症梅毒 1件)、無症候梅毒 11件、性別は男性 35件、女性 32件、年齢は10代 2件、20代 30件、30代 9件、40代 11件、50代 9件、60代 3件、70代 2件、不明 1件、推定感染地は国内 60件、不明 7件、推定感染経路は性的接触 64件(同性間 7件、異性間 50件、両性間 1件、性別不明 6件)、不明 3件であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件 遺伝子型は不明、年齢は80代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

百日咳 5件 年齢は5歳未満 1件、5～9歳 2件、40代 2件、推定感染地は国内 4件、不明 1件、百日咳含有ワクチン接種歴は4回接種済み 1件、1回接種済み 1件、不明 3件であった。

※ 第12週で報告のあった〔五類〕バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2件は削除された。

※ 第19週で報告のあった〔五類〕バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件は削除された。

※ 第26週で報告のあった〔五類〕バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2件、百日咳 1件は削除された。

※ 第28週で報告のあった〔五類〕百日咳 1件は削除された。

※ 第25週該当分として〔三類〕腸管出血性大腸菌感染症 1件の追加報告があった。

※ 第26週該当分として〔五類〕梅毒 1件の追加報告があった。

※ 第27週該当分として〔三類〕腸管出血性大腸菌感染症 1件、〔四類〕エムボックス 1件、〔五類〕カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1件の追加報告があった。

※ 第28週該当分として〔五類〕劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件の追加報告があった。

※ 第29週該当分として〔五類〕カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 3件、梅毒 1件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2023年30週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2023年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		27週	28週	29週	30週		
小児科	RSウイルス感染症	704 2.70	630 2.41	397 1.52	308 1.18	261	264
	咽頭結膜熱	92 0.35	103 0.39	102 0.39	103 0.39		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	346 1.33	347 1.33	286 1.09	349 1.34		
	感染性胃腸炎	1,164 4.46	1,172 4.49	872 3.33	966 3.70		
	水痘	35 0.13	31 0.12	39 0.15	28 0.11		
	手足口病	207 0.79	144 0.55	151 0.58	170 0.65		
	伝染性紅斑	14 0.05	2 0.01	9 0.03	2 0.01		
	突発性発しん	79 0.30	74 0.28	55 0.21	65 0.25		
	ヘルパンギーナ	2,088 8.00	1,716 6.57	971 3.71	840 3.22		
	流行性耳下腺炎	21 0.08	13 0.05	16 0.06	15 0.06		
	川崎病 *1	5 0.02	5 0.02	2 0.01	4 0.02		
	不明発しん症 *1	16 0.06	25 0.10	12 0.05	21 0.08		
	インフル エンザ /COVID -19	インフルエンザ *2	507 1.22	514 1.24	413 0.99		
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)		3,152 7.58	3,408 8.21	3,898 9.35	4,613 11.12		
眼科	急性出血性結膜炎	1 0.03				39	39
	流行性角結膜炎	12 0.31	26 0.67	18 0.46	14 0.36		
基幹	細菌性髄膜炎 *3		1 0.04	1 0.04		25	25
	無菌性髄膜炎	1 0.04	1 0.04	2 0.08			
	マイコプラズマ肺炎	1 0.04		1 0.04			
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)						
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス) *4						
	インフルエンザ入院	2 0.08	2 0.08	4 0.16	4 0.16		
2023/8/2集計							

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ ヘルパンギーナは先週より減少していますが、今後の動向に注意が必要です。
- ・ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は増加しています。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2023年30週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
～5か月	38	1		9				1	5		
6～11か月	64	6	1	66		18		16	49		
1歳	111	14	9	137	2	33		32	180		2
2歳	62	14	6	106	1	33		8	149	1	1
3歳	14	18	28	99	3	27	1	5	116	2	
4歳	7	14	37	94	3	19		1	115		1
5歳	4	22	50	94	4	19		1	94	2	
6歳	1	4	50	64	5	6		1	40	3	
7歳	1	3	44	52	3	6			32	4	
8歳	1	5	31	45	3	2			20	1	
9歳	1	1	21	49	2	1	1		13	1	
10～14歳	3	1	49	65	2	2			20	1	
15～19歳			1	16		1					
20～29歳	1		22	70		3			7		
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	308	103	349	966	28	170	2	65	840	15	4
先週比	-89	1	63	94	-11	19	-7	10	-131	-1	2

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科	インフルエンザ/COVID-19		眼科		基幹					
	不明 発しん症	インフル エンザ	新型コロナウイ ルス感染症 (COVID-19)	急性出 血性結 膜炎	流行性角 結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月			30								
6～11か月	4	5	59								
1歳	4	13	79		2						1
2歳	2	27	55								
3歳	2	25	52								
4歳	2	28	46								
5歳	1	36	48								
6歳	1	53	59								
7歳	1	47	48								1
8歳	1	32	57								
9歳		26	64								
10～14歳	2	68	374								
15～19歳		24	311								
20～29歳	1	31	659		1						1
30～39歳		28	598		5						
40～49歳		37	635		2						
50～59歳		7	682		2						
60～69歳		9	341								
70～79歳		3	251		2						
80歳以上		1	165								1
合計	21	500	4,613		14						4
先週比	9	87	715		-4	-1	-2	-1			

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数 【保健所別】 2023年30週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
千代田	4.00			2.33					0.67		
中央区				6.33		1.33		0.33	2.00	0.67	
みなと	1.50	1.00	1.17	0.67	0.17	0.50		0.50	2.33	0.33	
新宿区	0.86	0.71	1.00	2.14					2.43		
文京	1.25	0.50	0.50	1.25	0.25	0.50			4.25		
台東	3.00	0.50	0.75	6.75	0.25	1.00		0.75	8.75		
墨田区	0.20		0.60	2.80		0.20			3.60	0.20	
江東区	0.11	0.22	1.00	5.44	0.11	0.44		0.44	1.89		
品川区	1.75		1.75	3.13		0.75			3.50		
目黒区	1.00	1.60	0.80	3.00		1.00			2.80	0.20	
大田区	1.31	0.62	2.00	7.38		1.31			5.54	0.08	
世田谷	2.06	0.31	1.81	1.81		0.50		0.25	2.81	0.06	0.06
渋谷区	0.50	0.25		2.25	0.75	0.25		0.25	1.00		
中野区	1.33	0.17	2.17	4.00	0.17	0.50		0.83	5.17	0.17	
杉並	0.73		1.36	4.55	0.09	0.64		0.09	1.27		0.09
池袋	0.60	1.00	0.40	1.20	0.20	0.40			2.40		0.40
北区	0.29	0.43	1.29	3.00	0.43	3.71		0.43	2.57		
荒川区	3.75	0.25	2.75	5.25		0.75		0.25	8.25	0.25	
板橋区	1.70	0.10	1.20	2.40		0.30			1.00		
練馬区	1.23	0.38	0.77	3.08				0.31	3.23		
足立	1.08	0.62	0.31	4.08	0.15	0.54	0.08	0.31	3.31		
葛飾区			0.13	5.13	0.13	0.75		0.25	2.50		
江戸川	0.67	1.67	1.67	4.17	0.08	1.00		0.42	3.25	0.08	
八王子市	1.73	0.27	3.27	7.00	0.18	1.18		0.18	4.18	0.09	
町田市	0.13		1.25	6.13	0.13	0.88			1.63		
西多摩	0.13		0.63	2.38	0.13			0.13	1.25		
南多摩	1.00		0.38	0.63		0.25			4.00		
多摩立川	2.36	0.07	1.57	2.07	0.07	0.50		0.29	4.86		
多摩府中	0.71	0.29	1.19	3.33	0.14	0.52	0.05	0.38	3.14	0.10	
多摩小平	1.64	0.71	3.36	5.21	0.21	0.43		0.64	3.00	0.07	
島しょ									12.00		
東京都	1.18	0.39	1.34	3.70	0.11	0.65	0.01	0.25	3.22	0.06	0.02

	小児科	インフルエンザ/COVID-19		眼科		基幹					
	不明 発しん症	インフル エンザ	新型コロナウイルス 感染症 (COVID-19)	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田		1.50	17.00								
中央区		1.20	6.00								
みなと		1.22	10.00								
新宿区	0.14	0.82	9.73		2.00						0.50
文京		0.86	11.43								
台東		0.43	7.00								
墨田区	0.80	0.88	24.00								
江東区		1.46	10.54								
品川区		0.33	5.83								
目黒区	0.40	1.88	8.75								
大田区	0.15	4.95	10.29								
世田谷		0.84	14.40		0.50						0.50
渋谷区		3.29	6.86		3.00						
中野区		0.90	13.20								
杉並		0.24	9.18								0.50
池袋		1.25	14.63								
北区		1.18	14.09								
荒川区	0.25	0.86	10.14								
板橋区	0.20	0.06	11.75								
練馬区	0.23	0.90	11.38		0.50						
足立	0.08	0.70	12.00								
葛飾区		1.46	9.46								
江戸川		0.47	12.89								
八王子市		3.00	11.44		0.50						
町田市		0.23	9.54								
西多摩		0.21	6.07								
南多摩		0.31	7.62								
多摩立川		0.19	8.95								1.00
多摩府中	0.24	1.39	12.12		1.33						
多摩小平		2.18	11.82								
島しょ			34.00								
東京都	0.08	1.20	11.12		0.36						0.16

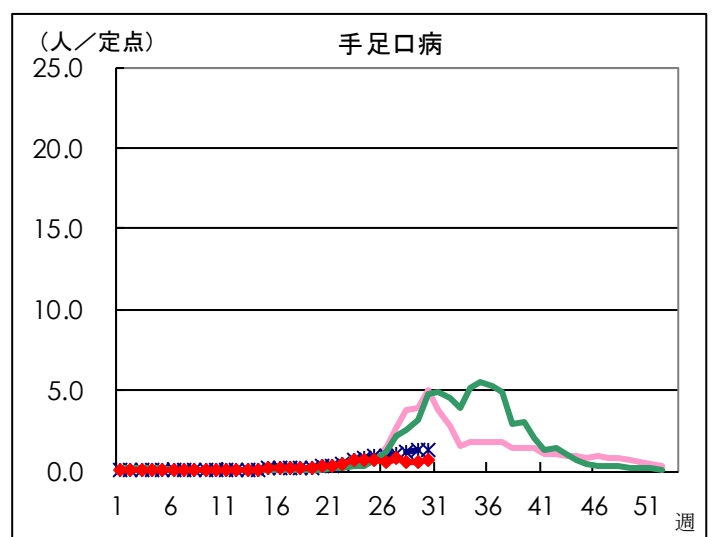
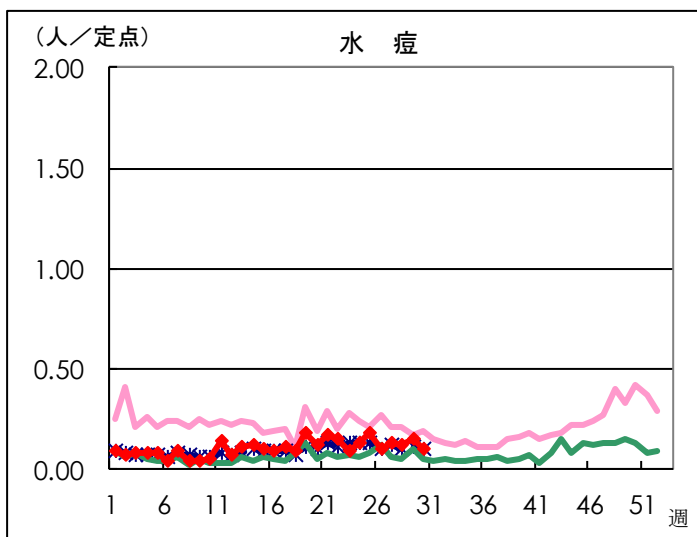
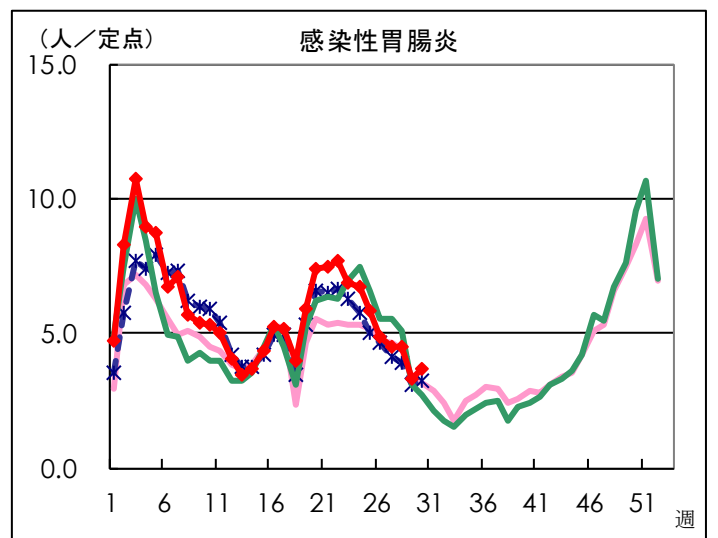
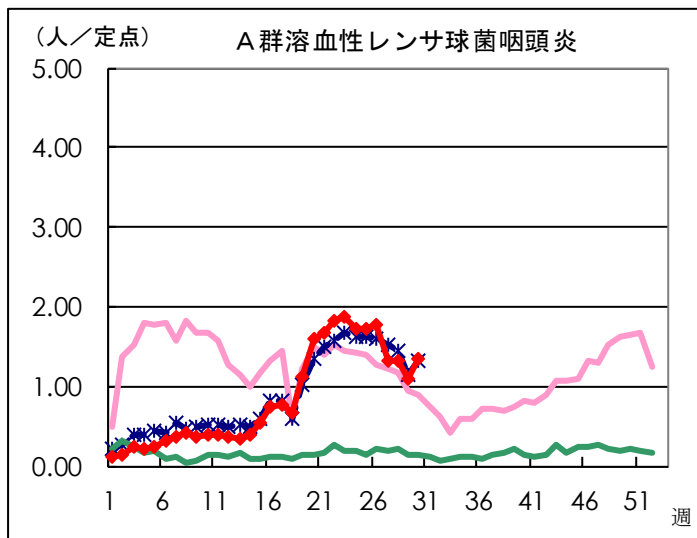
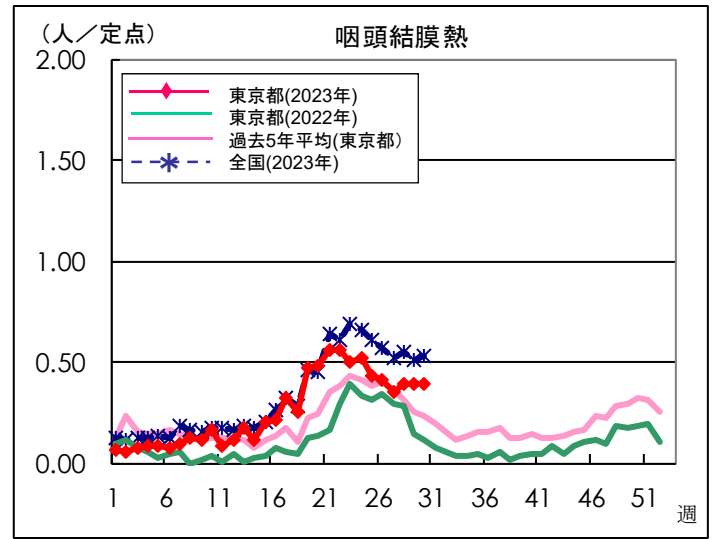
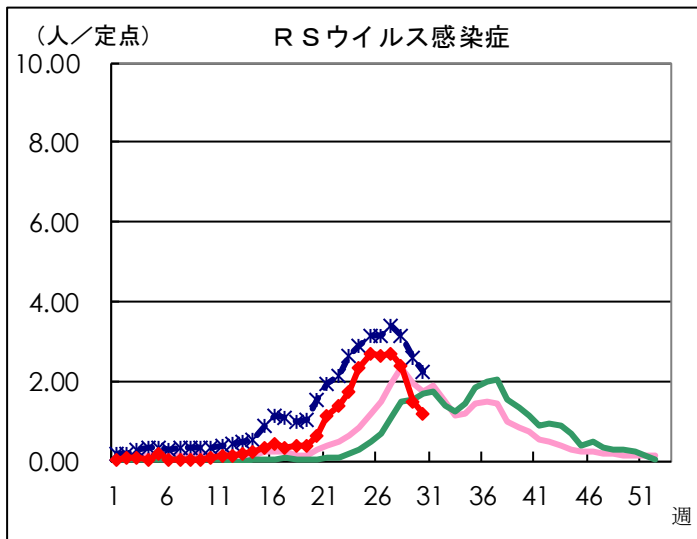
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2023年30週

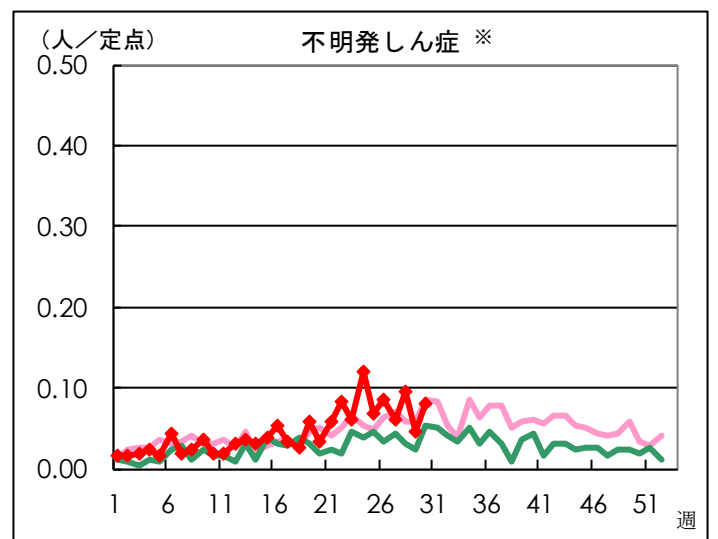
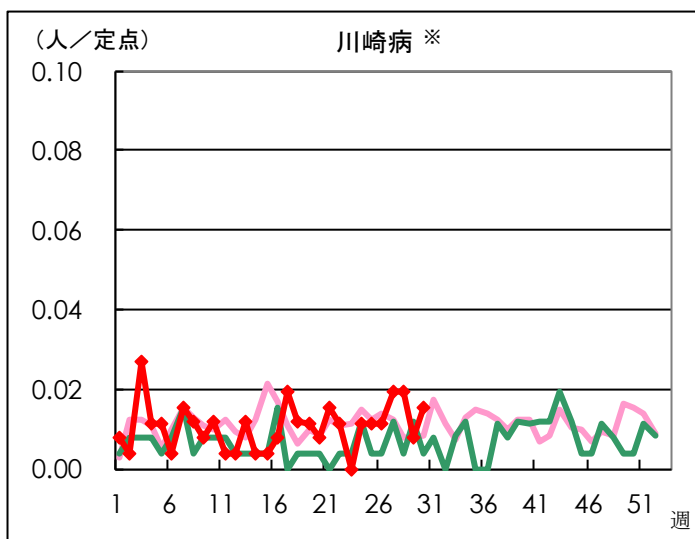
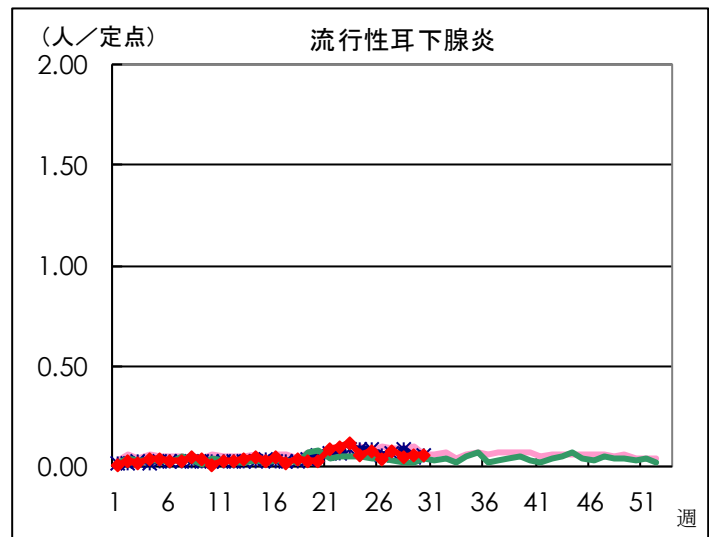
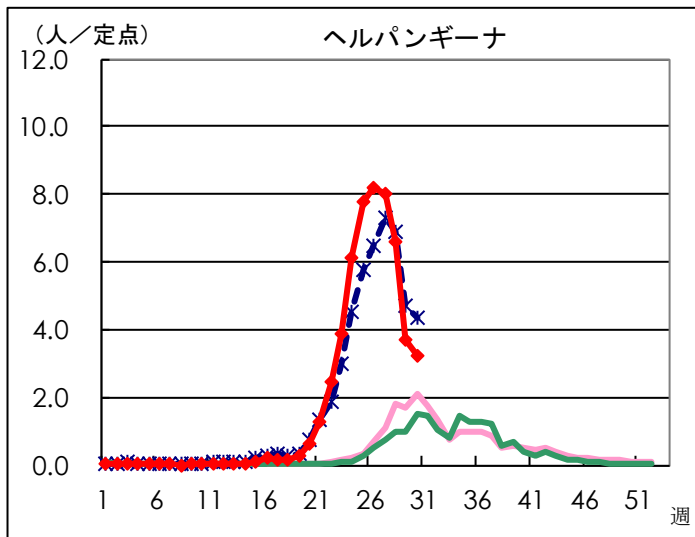
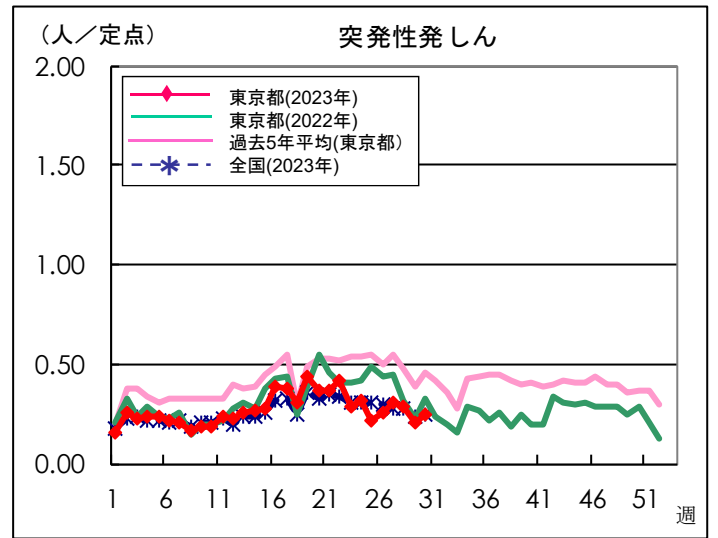
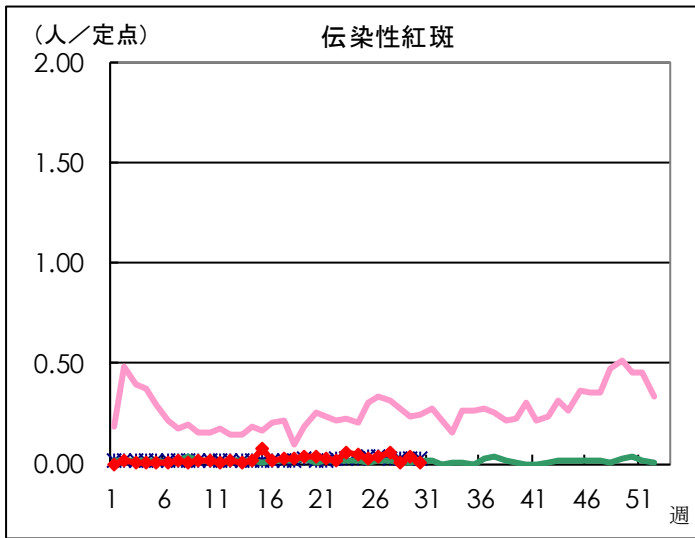
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病
千代田	12			7					2		
中央区				19		4		1	6	2	
みなと	9	6	7	4	1	3		3	14	2	
新宿区	6	5	7	15					17		
文京	5	2	2	5	1	2			17		
台東	12	2	3	27	1	4		3	35		
墨田区	1		3	14		1			18	1	
江東区	1	2	9	49	1	4		4	17		
品川区	14		14	25		6			28		
目黒区	5	8	4	15		5			14	1	
大田区	17	8	26	96		17			72	1	
世田谷	33	5	29	29		8		4	45	1	1
渋谷区	2	1		9	3	1		1	4		
中野区	8	1	13	24	1	3		5	31	1	
杉並	8		15	50	1	7		1	14		1
池袋	3	5	2	6	1	2			12		2
北区	2	3	9	21	3	26		3	18		
荒川区	15	1	11	21		3		1	33	1	
板橋区	17	1	12	24		3			10		
練馬区	16	5	10	40				4	42		
足立	14	8	4	53	2	7	1	4	43		
葛飾区			1	41	1	6		2	20		
江戸川	8	20	20	50	1	12		5	39	1	
八王子市	19	3	36	77	2	13		2	46	1	
町田市	1		10	49	1	7			13		
西多摩	1		5	19	1			1	10		
南多摩	8		3	5		2			32		
多摩立川	33	1	22	29	1	7		4	68		
多摩府中	15	6	25	70	3	11	1	8	66	2	
多摩小平	23	10	47	73	3	6		9	42	1	
島しょ									12		
東京都合計	308	103	349	966	28	170	2	65	840	15	4

	小児科		インフルエンザ/COVID-19		眼科		基幹				
	不明 発しん症	インフル エンザ	新型コロナウイルス 感染症 (COVID-19)	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
千代田		6	68								
中央区		6	30								
みなと		11	90								
新宿区	1	9	107		4						1
文京		6	80								
台東		3	49								
墨田区	4	7	192								
江東区		19	137								
品川区		4	70								
目黒区	2	15	70								
大田区	2	104	216								
世田谷		21	360		1						1
渋谷区		23	48		3						
中野区		9	132								
杉並		4	156								1
池袋		10	117								
北区		13	155								
荒川区	1	6	71								
板橋区	2	1	188								
練馬区	3	19	239		1						
足立	1	14	240								
葛飾区		19	123								
江戸川		9	245								
八王子市		54	206		1						
町田市		3	124								
西多摩		3	85								
南多摩		4	99								
多摩立川		4	188								1
多摩府中	5	46	400		4						
多摩小平		48	260								
島しょ			68								
東京都合計	21	500	4,613		14						4

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2023年30週 現在)

◆ 小児科定点

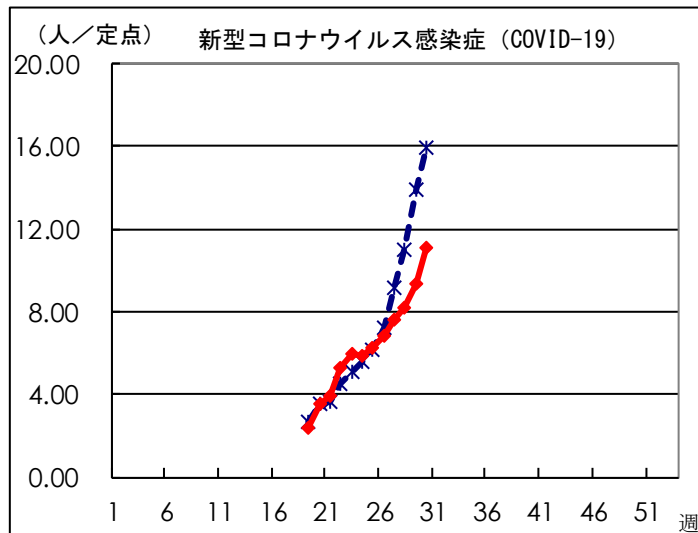
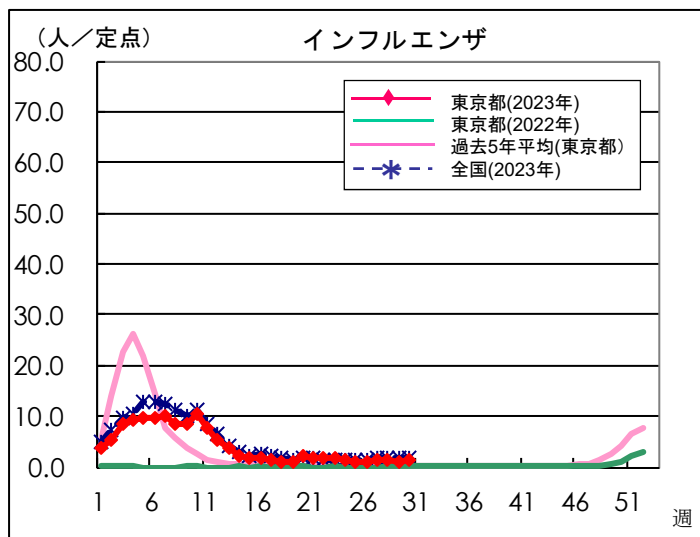




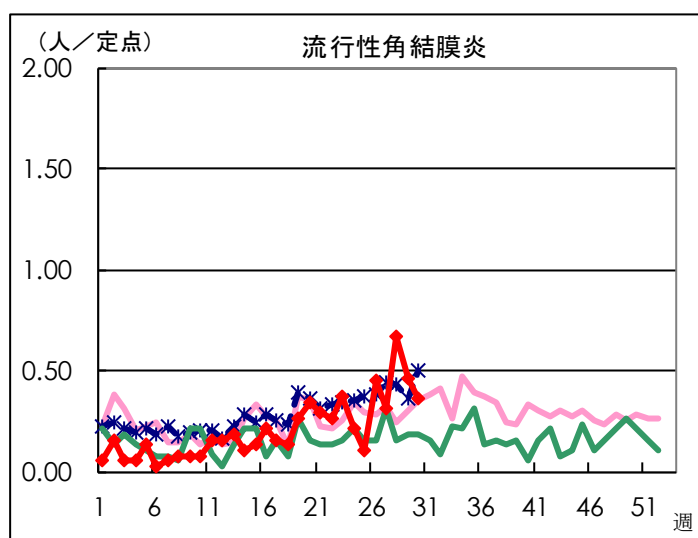
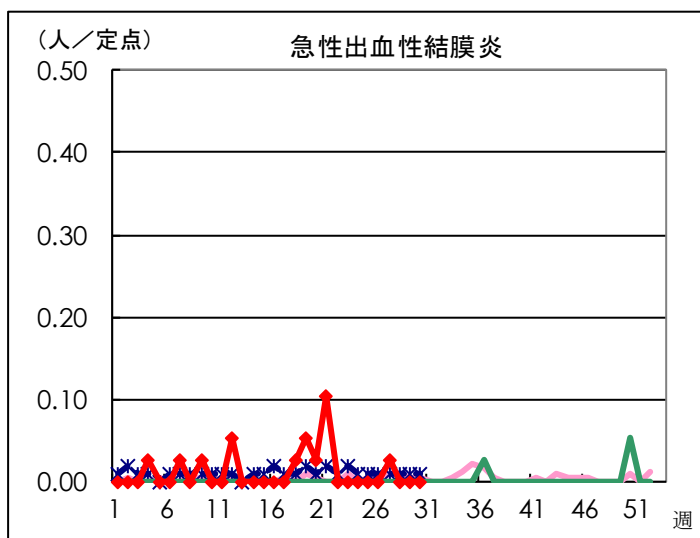
※ 東京都独自対象疾患

※ 東京都独自対象疾患

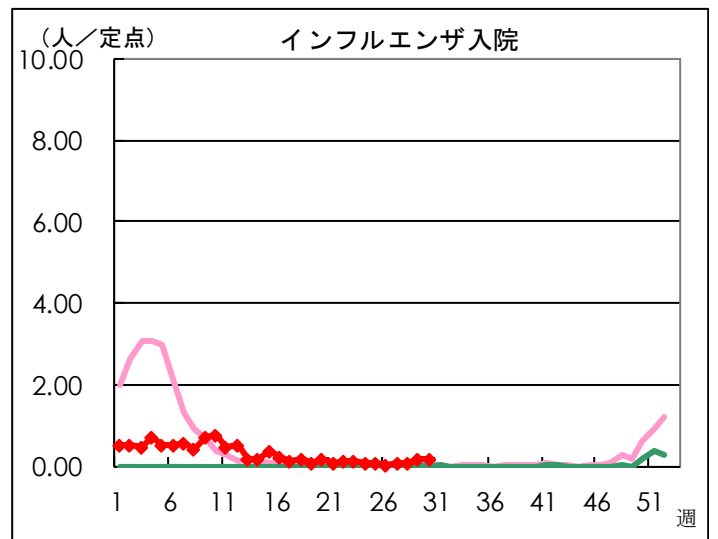
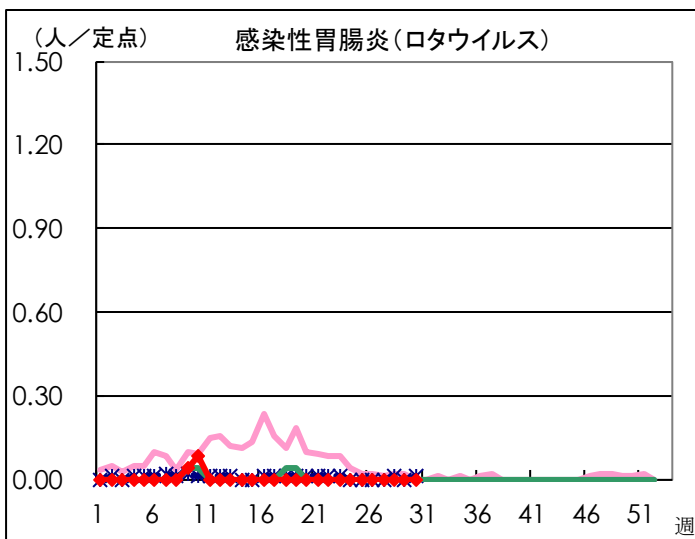
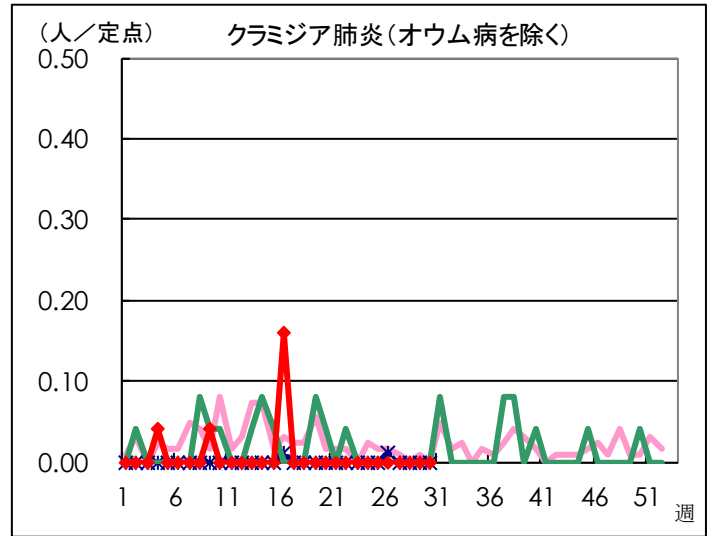
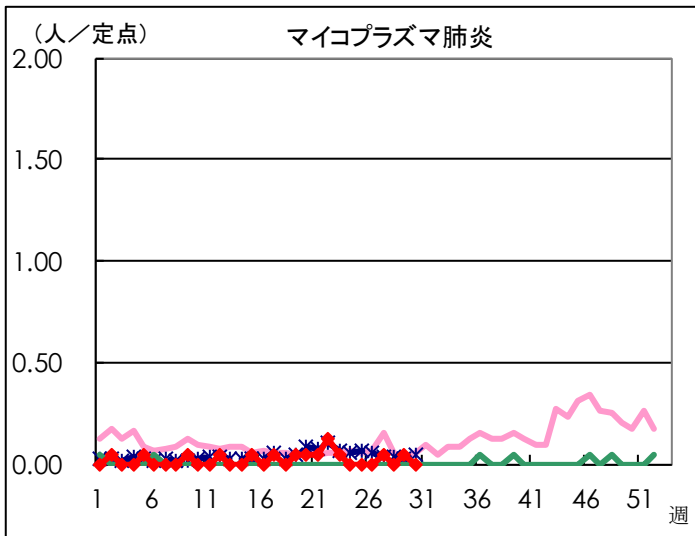
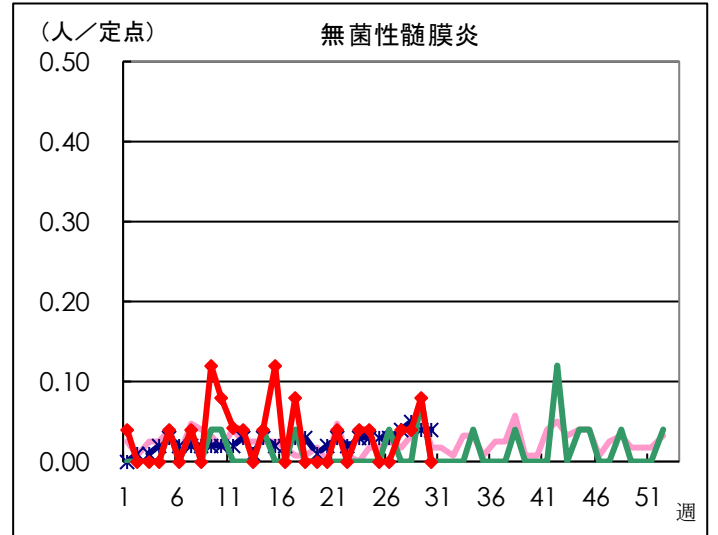
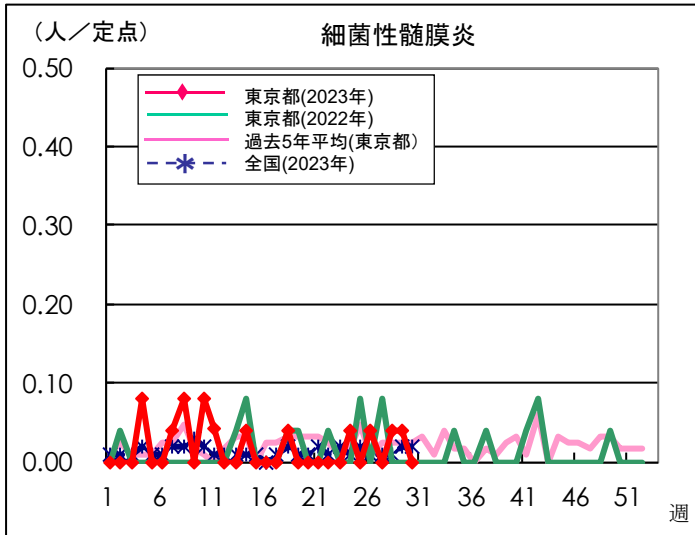
◆ インフルエンザ/COVID-19定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
7/6	手足口病	3	咽頭拭い液	エンテロウイルス71型
7/7	インフルエンザ様疾患	64	咽頭拭い液	SARS-CoV-2
7/10	RSウイルス感染症	1	咽頭拭い液	RSウイルスB型
7/10	インフルエンザ様疾患	8	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群2型
7/11	手足口病	4	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA群16型
7/11	突発性発しん	4	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型
7/12	インフルエンザ様疾患	58	咽頭拭い液	SARS-CoV-2
7/13	手足口病	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス71型

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH3亜型	B型Victoria系統	B型Yamagata系統
2023年28週	2			
2022-2023年 シーズン累計*	7	122	4	

* 2022-2023年シーズンの開始は第36週(2022年9月5日～)

病原体検出情報【週別】

検出病原体	2023年							
	21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週	28週
アデノウイルス	1	3						
コクサッキーウイルスA群		2		3	4	1	2	2
コクサッキーウイルスB群								
エコーウイルス								
エンテロウイルス71			1			1	1	2
その他のエンテロウイルス								
ライノウイルス	3	1				2	2	
ヒトメタニューモウイルス		1						
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス								
ヒトヘルペスウイルス6型・7型	1					1	1	1
EBウイルス								
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス								
麻疹ウイルス								
麻疹A型(ワクチンタイプ)								
風疹ウイルス								
風疹1a型(ワクチンタイプ)								
ヒトパルボウイルスB19								
RSウイルス	1	1					1	1
ノロウイルス			2					
ロタウイルス								
サポウイルス								
インフルエンザウイルスAH1pdm09					1			2
インフルエンザウイルスAH3亜型	2	2	3			1		
インフルエンザウイルスB型Victoria系統								
インフルエンザウイルスB型Yamagata系統								
SARS-CoV-2	3	1	1	4	2			2
その他のウイルス	1	1		1		1	1	
A群溶血性レンサ球菌T-1型	2							
A群溶血性レンサ球菌T-3型								
A群溶血性レンサ球菌T-4型	1							
A群溶血性レンサ球菌T-12型		1	1		1			
A群溶血性レンサ球菌T-25型								
A群溶血性レンサ球菌T-28型								
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型		1					1	
A群溶血性レンサ球菌その他のT型								
A群溶血性レンサ球菌T型別不能								
百日咳菌								
肺炎マイコプラズマ								
肺炎クラミジア								
髄膜炎菌								
B群レンサ球菌								
肺炎球菌								
インフルエンザ菌								
黄色ブドウ球菌								
大腸菌								
その他の細菌								
その他の病原体								

病原体検出情報【臨床診断名別】

2023年21週～2023年28週

	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発疹	インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	
搬入検体数	6	6	8	5		7		7	12	2		13	12	19					2	1	
アデノウイルス		4																			
コクサッキーウイルスA群		1				2			8			2		1							
コクサッキーウイルスB群																					
エコーウイルス																					
エンテロウイルス71						5															
その他のエンテロウイルス																					
ライノウイルス		1							1			4		2							
ヒトメタニューモウイルス														1							
単純ヘルペスウイルス																					
水痘・帯状疱疹ウイルス																					
ヒトヘルペスウイルス6型・7型								4													
EBウイルス																					
サイトメガロウイルス																					
ムンプスウイルス																					
麻疹ウイルス																					
麻疹A型(ワクチンタイプ)																					
風しんウイルス																					
風しん1a型(ワクチンタイプ)																					
ヒトパルボウイルスB19																					
RSウイルス	3													1							
ノロウイルス				2																	
ロタウイルス																					
サポウイルス																					
インフルエンザウイルスAH1pdm09														3							
インフルエンザウイルスAH3亜型														8							
インフルエンザウイルスB型Victoria系統																					
インフルエンザウイルスB型Yamagata系統																					
SARS-CoV-2	1								1				1	10							
その他のウイルス														5							
A群溶血性レンサ球菌T-1型			2																		
A群溶血性レンサ球菌T-3型																					
A群溶血性レンサ球菌T-4型			1																		
A群溶血性レンサ球菌T-12型																					
A群溶血性レンサ球菌T-25型																					
A群溶血性レンサ球菌T-28型																					
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型				2																	
A群溶血性レンサ球菌その他のT型																					
A群溶血性レンサ球菌T型別不能																					
百日咳菌																					
肺炎マイコプラズマ																					
肺炎クラミジア																					
髄膜炎菌																					
B群レンサ球菌																					
肺炎球菌																					
インフルエンザ菌																					
黄色ブドウ球菌																					
大腸菌																					
その他の細菌																					
その他の病原体																					

<感染症豆知識>

再びサル痘（エムポックス）、そしてワクチン

2022年5月頃から急速に患者数が増加したサル痘は、2022年1月1日～8月7日に89カ国・地域から27,814例が報告されたが、そのほとんどは欧米での発生だった。2022年7月21日にWHOは、COVID-19などと同じくPHEIC（国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態）宣言を行った。

感染者に「サル」にまつわるような印象を与えたり、人種差別につながる事態が発生したこと、自然宿主はサルではなくアフリカのジリス等の齧歯類と思われることなどから、2022年11月28日にWHOは名称を「mpox」（エムポックス）に変更した。国内でも感染症法上の4類感染症「サル痘」となっていたが、2023年5月26日に「エムポックス」に変更された。

欧米では2022年7～8月をピークとして減少傾向となり、2023年5月11日にWHOはPHEIC宣言を解除した。2022年1月1日～2023年5月2日で世界の確定例は87,301例、そのほとんどは米国で、次いで欧州となっている。一方、国内では2023年に入り増加傾向となり、2022年5月2日～2023年5月2日で129例が報告されている。

mpoxの予防には天然痘ワクチン（種痘）が有効で、故・橋爪壮博士ら（当時は千葉県血清研究所所属）が開発した世界で最も副反応の少ない天然痘ワクチンであるLC16m8株（現在はKMバイオロジクス株式会社で製造管理）もWHOが推奨するmpoxワクチンとなっている。

本ワクチン接種者ではmpoxに対する中和抗体が誘導されていること、ワクチン接種を受けたサルにはmpoxの発症予防効果が見られたこと、過去の1万例規模の治験では大きな懸念となる重篤な副反応は見られなかったことなどが報告されている。

種痘接種者では、20年後でも半数程度は抗体が保持されるが、これらがmpoxの発症をどの程度実際に防げるかは不明である。

（文責 川崎市健康安全研究所長 岡部信彦）